

『聖書はあなたに』(テモテへの手紙 第二 3章 10-17節) 2022.10.9.

<はじめに> 様々な声とことばが満ちあふれる世界に私たちは生きています。それを発するのは権力者・有名者・専門家・学者だけでなく、市井の人々・群衆、家族や親しい友、そして自分自身の内からも多種多様なことばが響いています。私はどの声・ことばに聞き従って生きていでしょう。

I その時に人々は(1-9)

①ことばは権威

ことばに聞き従うなら、内心はどうであれ、その相手の権威を認めることです。誰のことばに聞き従うかから、その人が生きる世界とその主権者が見えます。覇権同士がせめぎ合う世界はことばが乱れ飛び、平穏で安定した世界は発言者への信頼が絶大です。

②終わりの時の描写(1-9)

2-5 節は人が自分勝手と混沌に陥る描写です。それは周囲をも巻き込んで落ちて行きます(6,13)。「見かけは敬虔であっても、敬虔の力を否定」(5)し、「いつも学んでいるのに、いつになっても真理を知ることができない」(7)、「真理に逆らう失格者」(8)が実像です。

③敬虔に生きる(12)

先のような世界でキリスト・イエスにあって敬虔に生きようとする者は、逆風にさらされます。敬虔とは、神なるキリストのことばを愛し、信頼して生きる姿です。キリストが歩まれたように生きるには、見かけだけの真似には限界があり、どうしても力(5)が必要です。

II けれどもあなたは(10-15)

①パウロとテモテ(10-11)

本書は師パウロから弟子テモテに送られた手紙です。パウロはキリストを宣べ伝えるために奮闘し、テモテも彼に追従しました。単に旅程と経験をともにするだけでなく、パウロのうちにある教え、生き方、計画、寛容、愛、忍耐をも汲み取り、理解・信頼していたからです。

②学んで確信した(14)

「学ぶ」と「教わる」との違いは何ですか。未知と不思議から学びは始まります。テモテはパウロと出会い、困難にも吹き消されない不思議な生きる力に関心を抱き、追隨して来ました。その力が彼が信じる変わることない真理=キリストにあると確信するに至ったのです。

③聖書は語る(15)

確信するには裏付けが必要です。パウロのメッセージと彼の生き様は、彼が幼い頃(1:5)から親しんできた聖書が示していることそのものでした。新しいものが次々現れては、やがて古びて行きます。真理とは古びることのない、変わらないものでなければなりません。

III 聖書はあなたに(15-17)

①聖書は神の息による(16)

靈感は神の息(脚注)で、聖書に親しむ者にいのちを与え(創世記 2:7、エゼキエル 37:9-10)、神の計画を示し、それを実現します(イザヤ 55:11)。ことばを記した書物は古今東西に無数にありますが、聖書こそ古びず信頼できる権威あることばです。

②あなたに知恵を与える(15)

知恵は人間の小賢しさ、ずる賢さとは別物で、万物を創造され、今も統べ治められる神とその計画を知ることです。神は御子イエスを人の世に遣わし、ご自身と人とを再度結び付ける救い主(キリスト)とされました。彼を信じる者は誰でも救われて、神の子とされます。

③あなたを整える(16-17)

聖書は神の息・いのちに満ちていて、読む者にいのちを与え、造り変えます。無知な者を教え、誤っている者に間違いを諭し、歪んでいる者を矯正し、未熟な者に義の訓練を与えて、神が創造された人を良い働きにふさわしく、細やかに成長を促し、整えます。

<おわりに> ことばと権威が氾濫する中において、聖書は今も私たちにいのちと確信を与える、古びない権威ある神のことばです。共にこの聖書を手に取り、読み進みませんか。そうすれば、神のいのちと力が私をも造り変えて行くことを体験できます。(H.M.)